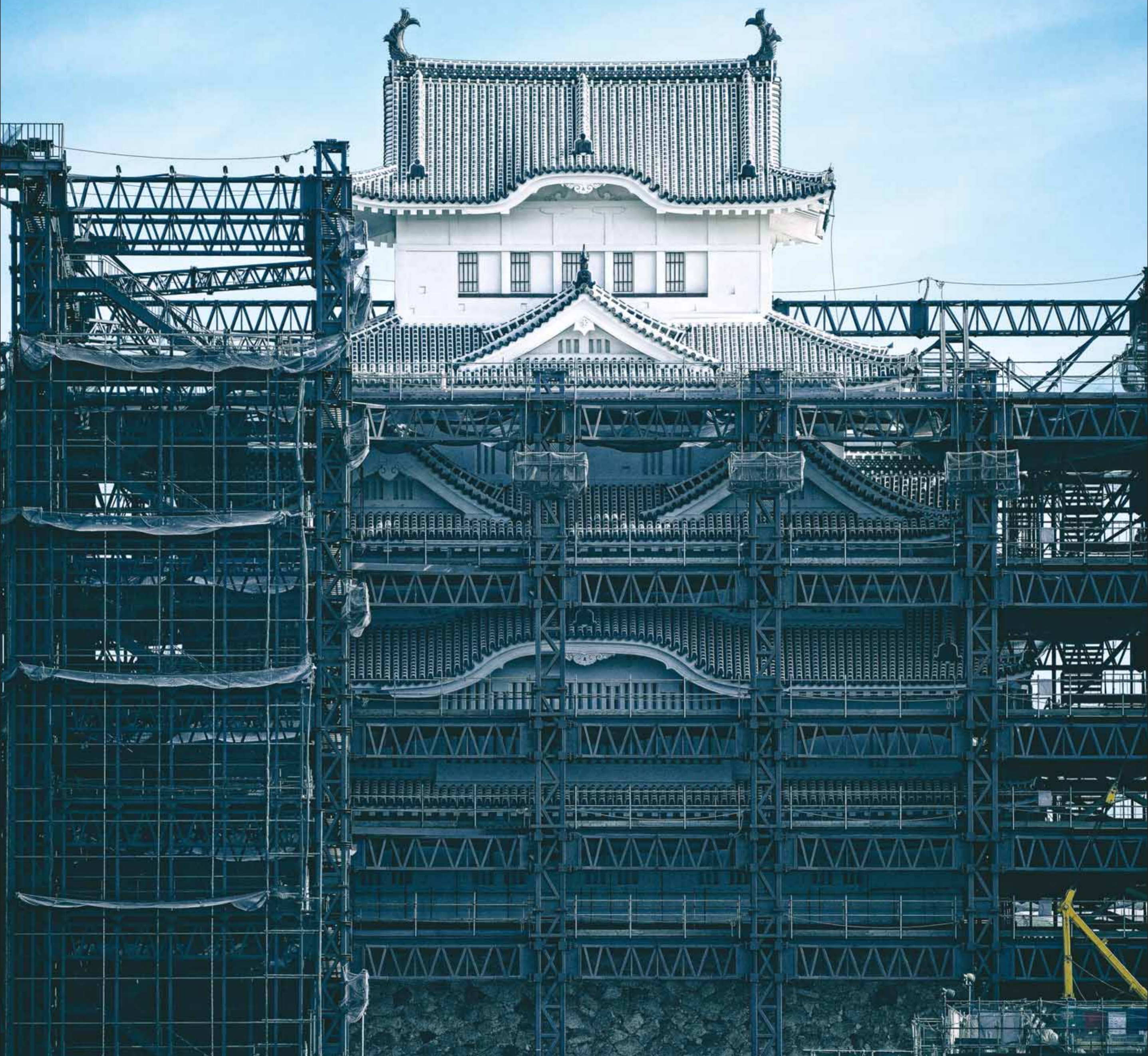
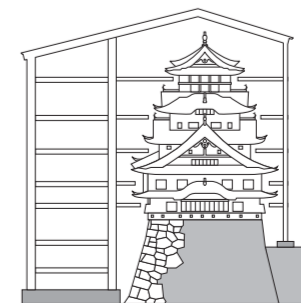


姫路の空に、白鷺を帰すときが来た。



これは、今年の春のこと。生まれ変わった姫路城が、姿を現しました。まるで頑丈な鳥かごが開いて、目にも鮮やかな白鷺が顔を出したかのように。着工から5年近くの時を経た、「平成の保存修理」。鹿島建設を中心とする共同企業体による歴史的项目の最終段階です。屋根瓦の全面ふき替えや、真っ白な漆喰(しっくい)の塗り替えはすべて完了。400年前の完成当時にタイムスリップしたような美しさを取り戻しました。最後の正念場になったのが、13階建てビルに相当する大天守をまるごと覆ってきた、巨大な「素屋根(すやね)」の鉄骨を無事に解体すること。その複雑優美な大天守に一切触れることなく、精密に組み上げられた鉄骨を、こんどは丹念に取り外していく作業です。姫路城は、国宝にして世界文化遺産。万が一にも、屋根や壁を傷つける

ことは許されません。その上、火気厳禁で溶接を使っていないため、つなぎ目のボルトを慎重に外す手作業も多い現場。決してボルト1本落とすわけにもいかないのです。これまで、少数精鋭12人のとび職人と、2人のクレーンオペレータだけによって、丁寧な仕事がつづけられてきました。絶対に世界文化遺産を傷つけることなく、そと。そして現在。姫路駅から真っすぐ伸びる大手前通りの、道の先。白くまばゆい「白鷺城」はさらにくっきり浮かび上がり、まさに大空へ飛び立とうとしているかのように。来春の正式なお披露目を待ち切れないのは、姫路城も同じなのかもしれません。



100年をつくる会社
鹿島